

そこが知りたい

## 仏教の教え

Q 御霊前と御仏前は違うのですか？

親族や知人がお亡くなりになると香典を持参します。香典は本来「香奠」と書きます。香を供えるという意味です。現在ではお香の代わりに金銭を包むようになります。

ところで、不祝儀袋の表書きを「御霊前」とするか「御仏前」とするか迷ったことはありませんか？通夜や葬儀の時は「御霊前」と書きます。故人は亡くなって四十九日間は、まだ行き先が決まっていないからです。四十九日以降の表書きは「御仏前」とします。

### 御仏前

成仏されて仏様の世界にいる

### 御霊前

この世に魂がとどまっている

亡くなった日

Q なぜローソクの火を

口で吹き消してはいけないのですか？

仏前の灯明は、私たちに智慧を与え、社会をよりよくし、一家が平和であるように、無言のうちに語っています。

ところで、この灯の消し方です。誕生日のバースデーケーキにもローソクを立てて誕生を祝います。それ自体は良いのですが、歌の後に、その灯を一気に吹き消します。バースデーケーキはそれで良いのかもしれませんが、仏前の灯は口で消してはいけません。日頃、生ぐさいものを食べている人間が、尊い仏壇や仏前に対して失礼に当たるからです。仏前の灯は手であおいで消すか、「芯つまみ」という道具を使って消すようにします。

Q なぜ、数珠は左手首に掛けるのですか？

数珠は通夜・葬儀・告別式の焼香の際に使う、仏具です。仏具の中でも最も身近な数珠は、念珠（ねんじゆ）とも呼ばれます。葬式の間は、常に数珠を手元に用意しておきましょう。数珠の正しい持ち方は、座っているときは左手首にかけ、歩くときはふさを下ににして左手で持ちます。



なぜ左手なのでしょう？それは、仏教の世界では、左手が仏の世界を表すと言われるため、基本的に左手首に掛けて持つようにします。焼香の際に、数珠をかばんから取り出す方もいますが、数珠を扱う上ではマナー違反とされているため気をつけましょう。

Q 何のために、お墓参りをするのですか？

日本では、お盆やお彼岸、命日、故人の年回法要などの日に、お墓参りするのが習わしとなっています。しかし、お墓参りはいっしょにしなければならぬ、という決まりがあるわけではありません。子どもの誕生、合格、就職、結婚、病気の回復など折りにふれてお墓参りしたいものです。お墓とは何かと問われれば、先祖代々が眠っている場所と答えるしかありません。人間の死亡率は一〇〇%なのだから、いつかは自分もそこに入るわけですから、先祖と共に暮らすことができるのがお墓です。やがて子孫もそこにやってきます。お墓参りとは、今は亡き先祖に逢い、心をつなぐ行いであり、線香をあげて合掌し、生前の故人を偲ぶと、心が故人に届くのです。



Q 墓地に塔婆を建てる意味は？

しばらくお逢いできなかった方から連絡を頂くと、うれしくなるものです。お亡くなりになった方々も、私たちの便りを心待ちにしておられます。お塔婆は亡くなった方々へお出しするお手紙のようなものです。

心を浄化し、  
煩惱を断つ  
(梵字)

日付 差出人

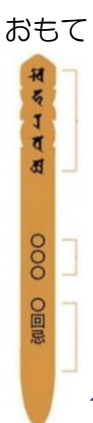
うら

おもて

宛先

宛名

本文



(例) 親族で〇回忌法要をしました。

お塔婆をみますと、見慣れない文字が書いてあります。これはインドの文字で梵字（ぼんじ）といわれます。わたしたちが幸せに毎日を送り、仲良く暮らしていることを亡くなった方々にお知らせすること、あの世とこの世に生きるものを結ぶ手紙の役割を果たしているのです。わたしたちが、この世で精一杯世のため人のために生きているということをお知らせすることが、亡くなった方々への何よりの供養になるのです。そして、その功德は量りしれないとされています。

## 護持会たより

日頃より雲林寺護持会の活動にご理解を賜り誠にありがとうございました。世話人の交代がございましたので御報告させていただきます。川原湯・畑地区の豊田清様が退任され、新任に清水英一様、北軽井沢地区の須原幸夫様が退任され、青木篤様が任命されました。豊田様、須原様には長きに渡り護持にご尽力頂き感謝申し上げます。六月二十七日、浅間酒造にて通常総会がございました。



北軽井沢 青木 篤様



川原湯・畑 清水英一様

### 令和6年度護持会収支決算 (単位:円)

(収入)	
前年度繰越金	1,613,543
会費(世話人集金)	1,270,500
会費(町外檀家)	513,500
通常総会会費	22,000
雑収入	182
	3,419,725
(支出)	
宗務費	617,290
通常総会	198,629
教区護持会総会	40,000
梅花流助成金	100,000
慶弔費	105,000
事務費	23,562
積立費	1,000,000
予備費	672,000
	2,756,481
次年度繰越金	663,244
積立金	7,000,000

雲林寺報第39号

慈恩

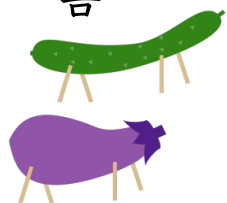
令和7年8月発行

残暑お見舞い申し上げます  
令和7年も暑い最中、お盆を迎え、当山でも盂蘭盆会大施食会の法要が修行されました。お盆は神通力を得た目連尊者が餓鬼道に落ちて苦しんでいる亡き母を救おうとして果しえず、お釈迦様の教えにしたがった大勢の修行僧を供養して、その威神力により母を救ったという故事に由来するものです。供養とは、お仏壇や墓が有ろうと無かうと愛おしい人、大切な人を思い出した時、その時すでに供養となっています。また、食べることでなくても好物を供えたい、見えても、好きだった音楽を供えたい、答えがなくても語りかけたい、と行動した時、それが供養になっているのです。何処にいても、ふと心の中で手を合わせた時、すでに供養となっています。元気で暮らしている姿に勝る供養はありませんが、家族皆で仲良く、素直に与えられた命に感謝して生きる。これが供養です。手に取るもの全てに感謝し、踏みしめる大地を愛おしく思い、この世の一つ一つを慈しみ、生きること、これが大切なことです。お盆はまさに、あの世この世の戸が開き、生き死にのへだてなく、心のふれあいを喜ぶ季節なのです。日頃は生活に追われて忘れていた亡き肉親への思いやりの心を、年に一度、時を同じうして取り戻し、ふれあい、家族のひとときを設けてくれた祖先の叡智、それは真に素晴らしいことではないでしょうか。残暑厳しき折、皆様ご自愛ください。よう切に祈念申し上げます。



三十世住職

轟 省吾



### 第15回雲林寺護持会親睦 ゴルフコンペのお知らせ 9月17日(水) 嬬恋高原ゴルフ場

壇信徒の皆様の参加をお待ちしております。皆様お誘いあわせの上、お申込み下さい。※過去に参加された方にはおハガキで通知いたします。







### 12月31日 除夜の鐘

本年より 昼間に鐘を撞く「感謝のつどい」を開催します。詳しくは次ページを参照し、是非お誘いあわせのうえお越しください。

### 1月2日 新年祈禱会

総代・世話人様にお集まり頂き、雲林寺全檀信徒様が幸多い年となりますよう御祈禱いたしました。



### 1月28日 川原湯初不動

川原湯不動堂の初不動を祈禱させていただきました。1年で最初の「初不動」は最もご利益があるとされております。



### 5月15日 貝瀬薬師堂

国道292号沿い、中之条町六合地区へ向かう途中の貝瀬薬師堂を祈禱させていただきました。



令和7年前期

## 活動報告

### 1月12日 新春坐禅会

長野原スポーツ少年団（野球部・バレー部・水泳部）による、合同坐禅会がございました

### 2月2日 節分会

立春を迎えるにあたり、祈禱を申し込まれた方の厄除け祈禱法要をいたしました。



### 4月27日 大般若会

般若（はんにゃ）の風に当たすることで、家内安全、厄難消除、商売繁昌などのご利益があるとされております。大般若会終了後は、お供えした御札を檀家様にお配りします。大般若会はどなたでも参加できるので、是非お越し下さい。



### 6月18日・19日 長野原署坐禅会

日頃より町民の安全のために仕事をしてくださる長野原警察署の署員の皆様が2班に分かれ、坐禅を体験していただきました。



### 7月15日 日本文化体験

長野原町の姉妹都市であるリビンググストン市（米・ミナソ州）より交換留学生と引率の方10名が来山し、坐禅・書道・琴演奏の体験をされました。



## 三月十五日は雲林寺開山記念日

## 法灯を守る



雲林寺は永禄貳年（1559）3月15日、戦国の武将、海野長門守（うんのながとのかみ）が開基となつて現所在地となる大字長野原に伽藍を建立しました。当時は、現在地の一段下に建立していたようです。

海野幸光は、戦国時代に西吾妻地方の吾妻川左岸に勢力を持っていた武将です。戦国時代の羽根尾城に拠つた羽尾景幸の孫にあたります。海野幸光は、天正九年（1581）、自身の屋敷である岩櫃城（いわびつじょう）で真田十勇士の伝説で有名な真田幸村の父、真田昌幸に滅ぼされました。享年は75歳でした。

実際に 寺院を建立した人を開基（かいき）と呼び、海野幸光は雲林寺の開基であります。お寺を創立するという事は、当時、相当な財力、権力があつたのではありません。では初代の住職となつた人を開山（かいさん）と呼びます。雲林寺の開山は為景青春（いけいせいしゅん）大和尚です。



本堂西側のご開山様の像

為景青春大和尚は安中市にある長源寺九世であり、雲林寺以外にも3ヶ寺を開山しております。

宝昌寺（群馬県高崎市）  
長伝寺（群馬県安中市）  
桂霄寺（長野県南佐久郡）



長源寺（安中市）

当時の雲林寺は沼田藩真田氏の支配下にあって、寺領田畑三十町歩、檀家400人の規模でした。

天明三年（1783）7月8日、浅間山の噴火によって吾妻川流域の村々は一瞬にして溶岩泥流に溢れ、泥海と化しました。



長野原町は死者約二百名、鎌原に次ぐ大きな被害を受けました。雲林寺も流失されました。

当時の住職であった十三世枝転梅庵（してんばいおう）大和尚は、過去帳を持って逃げ、溶岩泥流から逃げ切りました。

過去帳は、故人様の命日や戒名を記載しておく大切な仏具です。



過去帳（かこちょう）

天明三年（1783）の浅間山の噴火からのわずか30年後、長野原の有志により雲林寺は再建されました。現在の本堂です。

本堂には以前の本堂の柱が使われております。良く見ると、浅間山噴火の火災による焦げたような跡が見られます。

雲林寺の開山堂は本堂の西側に位置し、歴代の住職の位牌が安置されています。



歴代住職の偉大な足跡は一朝にはありませぬ。ものではありませぬ。66年目の三〇世住職として、受け継がれてきた法灯を守っています。

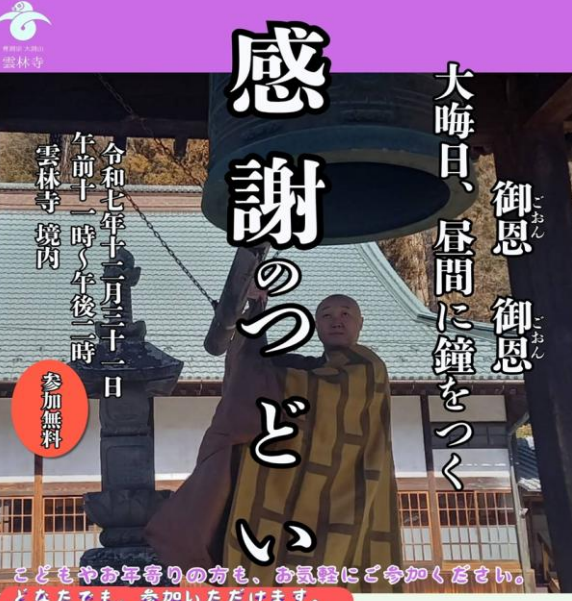


## 感謝のつどい

近年、少子高齢化が進み夜間の外出を控える傾向にあります。大晦日の昼間に鐘をつくことにより、お年寄りやお子様、そしてご家族が参加しやすくなります。大晦日の午後、たくさんの人たちに鐘をついていただき、一年の感謝の気持ちを届けてみましょう。たくさんの方の催しを用意してお待ちしております。

## 感謝のつどい

大晦日、昼間に鐘をつく  
御恩 御恩



雲林寺

令和七年十二月二十二日  
午前十一時～午後二時  
雲林寺 境内  
参加無料

子どもやお年寄りの方も、お気軽にご参加ください。どなたでも、参加いただけます。